



…ドクター内田のひとりごと…

**ワクチン・健診(検診)・いつもの受診で人生を見つめなおす**

新しい年度が始まったかと思えばもう5月です。新生活を始めた方やそれを受け入れる状況にあった方々は慣れてきたでしょうか?5月にもなると外は新緑です。緑のおいがしますね。先日息子と「小鹿野って春のにおいを感じるね」と話したことです。土のにおい、田んぼのにおい、風にすらさわやかな緑のにおいを感じます。花粉症でつらかった方々もだいぶ落ち着いてきた頃でしょうか。

さて、少し前の話になりますが、コロナワクチンの予防注射を受けました。インフルエンザなどの一般的な予防接種はほとんどが皮下注射なのですが、コロナワクチンは筋肉注射です。打ったときは、本当に今注射したの?と思ったほど痛みは感じませんでした。ところがどうでしょう。翌日、注射を打った左腕が痛いのです。まるで打撲した時の痛みで、腕が上がりにくい。これが注射後の副反応だなと身をもって感じました。こんな話をすると「私は注射したくない」という人も出てくるかもしれませんが、いやいやそうじゃありませんよ。ワクチンがしっかり体に入り、今まさに免疫機能ががんばって抗体を作ってくれているんです。「がんばれ、自分の体!」と思いつつ腕をさすりしました。

予防接種に限らず、病気を未然に防いだり早期発見したりする方法はいくつもあります。健診や人間ドックも。今回は、毎年人間ドックを受けていたはっちゃんに早期がんが見つかった話を綴ってみたいと思います。

いつも明るく前向きなはっちゃん。人間ドックを受けているから大丈夫という安心感がありました。ところが

先日受けたドックの結果、乳がんの疑いがあるという結果が返ってきたのです。すぐに大学病院に紹介したところ、幸いなことに小さながんで、問題なくすべて取り切れたとのこと。「私は100歳まで生きようと思っていたけど、がんになるなんて思ってもみなかったよ。でもね、好きなことして生きていきたい。私は温泉が好き。だから温泉好きの乳がん患者のバイオニアになる!」というのです。すごい言葉だなーと感心し、さっそくこの文章[内田のひとり言]に今の話を書いてもいいか交渉したことでした(笑)。

**危機や難局は、乗り越えるためにある**

(緒方貞子:元国連難民高等弁務官)

**悲観主義者は風にうらみを言う**

**楽観主義者は風が変わるのを待つ**

**現実主義者は、帆を動かす**

(ウィリアム・アーサー・ウォード:米国の作家)

1年前コロナが流行し、医療関係者の感染も報告され、知人の医師もICUで治療された話を聞きました。その時私は「死」を意識しました。幸いなことに私は今まで健診(検診)で大きな異常は見つかっていませんが、これまで関わってきた方々の中に、職場検診で大病が見つかった人もいます。ワクチン接種を受けるとき、健診や人間ドックを受けるとき、あるいは、かかりつけの医療機関に受診をしたときは、今一度自分の人生を見つめなおす、そんな機会になればいいのかもしれない。

院長 内田 望

思いつくまま 49  
気のむくまま

**外来からのお知らせ**

**発熱外来**

発熱や咳など呼吸器症状等のある人は、午後2時から4時までの間、発熱外来で対応します。必ず、事前にお電話(☎75-2332)いただき受診方法をご確認ください。

**〈お子さんをお持ちの人へ〉**

小児については、小児科医による診察が望ましく、かかりつけ小児医療機関や埼玉県新型コロナウイルス感染症

県民サポートセンター☎0570-783-770(24時間対応)に電話などでご相談ください。

最新の休診情報は、町立病院のホームページ「診療日カレンダー」でお知らせしています。

※休日急患当番医は広報おがの25ページをご覧ください。

**町立病院新任医師の紹介**

4月から小鹿野中央病院に着任された先生をご紹介します。



内科医長  
植木 愛先生

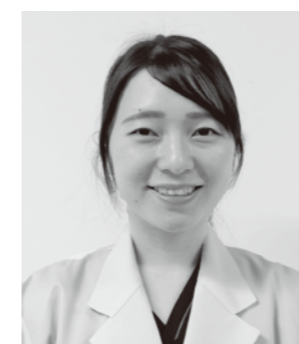
初めまして。4月より赴任しました植木愛と申します。

私は都内の大学を卒業後医学部に進学したのですが、小鹿野町に貸していただいた修学資金のおかげで修学することができました。そのため、学生の頃から将来的に小鹿野中央病院で勤務することを念頭に目指す医師像を模索し、初期研修終了後は家庭医療を専攻しました。卒後、北陸地方で7年間研鑽を積み家庭医療専門医を取得し、昨年埼玉県へ引越してきました。

家庭医療という言葉にあまり馴染みがないかもしれませんが、欧米では「家族みんなの、生まれてから死ぬまでの一番身近なかかりつけ医」として親しまれた存在です。私も小鹿野町の皆様にとって「何かあったらまず相談したい」と思ってもらえる家庭医になりたいと思っています。

私生活では4才と2才の子どもたちを抱え、仕事と育児の両立に常に悩まされています。温かく見守っていただけたら幸いです。

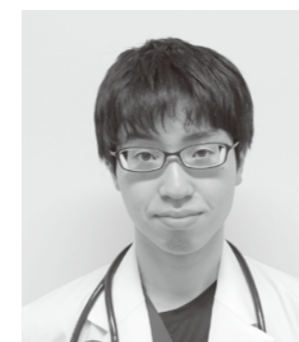
小鹿野町は都内の大学に通っていた頃から何度も訪れている大好きな町で、この町で働くことを楽しみにしてきました。どうぞよろしくお願いいたします。



内科医長  
津野桃里先生

はじめまして。この度小鹿野中央病院へ着任させていただきました津野桃里と申します。自治医科大学を卒業し医師4年目となります。高知県出身で、大学卒業後は高知医療センターで2年間の初期研修終了後、内田院長の以前の勤務地である雲の上の町、栲原病院で1年間勤務し、結婚に伴う県の異動を経て現在に至ります。

まだ埼玉県民歴は短いですが、これから小鹿野町の魅力を発見すること・皆様と関わっていくことが楽しみです。長らく土佐弁で患者様に接してきたため診察中に聞きなれない言葉も出てしまうかもしれませんが、温かく見守っていただき、埼玉・小鹿野の言葉や文化など教えていただけますととても嬉しいです。地域包括ケアシステムがしっかりとした小鹿野町で皆様からいろいろなことを学ばせていただくとともに、皆様の生活を支える一員になれば、と思っています。至らぬ点もあるかと思いますが、日々精進してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



内科医員  
萩原拓哉先生

初めまして。今年度より町立小鹿野中央病院に着任させていただきます、萩原拓哉と申します。自治医科大学附属さいたま医療センターで初期研修を2年間行わせていただき、今年度で医師3年目となります。

私は埼玉県さいたま市(旧与野市)で生まれ、高校卒業後は栃木にある自治医科大学に進学しました。町立病院には学生実習でお世話になったことがあり、今回医師として赴任することになり感慨深く思います。赴任に合わせ小鹿野町に転居しており、これからこの町のことを広く知っていきたくです。

赴任して間もないですが、町立病院は外来診療を始め、地域の福祉や介護と協力して訪問診療や緩和ケアを行っており、地域に密着した施設だと感じました。内科医として勤務しながら、在宅診療や入院患者様の退院支援など学ばせていただきたいです。これから地域の皆様により良い医療が提供できるように尽力していきます。よろしくお願いいたします。